

# 次世代サービスの迅速な市場投入を CSG Data Mediationが強力に支援

VoIPやコンテンツ配信、さらには携帯電話の3Gサービス等、さまざまな次世代通信サービスが登場している中で、これらの利用情報を収集し、効率的な課金処理を実現するシステムが必須となっている。ここで注目を集めているのが“メディエーション・システム”だ。今回は、キャリア・ISPの多様なメディエーションニーズに対応するCSG日本の「CSG Data Mediation」製品について紹介していく。

- PART 1 戦略的ビルディング・ソリューション
- PART 2 統合メディエーション・プラットフォーム
- PART 3 マルチビジネス・ビルディング・ソリューション

メディエーション・システムとは、交換機やソフトスイッチ、ルーター等のネットワーク機器、さらにはアプリケーション・認証サーバー等から、顧客のサービス利用に関する情報（ユーザー情報）を収集し適切な形式に編集して、課金システムやネットワーク管理システムへ受け渡すものである。

ここで、あらゆるサービスに対応した先進的なメディエーション・システムを提供し、市場から高い評価を得ているのが「CSG Data Mediation」だ。

はじめに、ネットワークとのインターフェースにおいては、固定網、ワイヤレス、IP／広帯域通信網等、通信メディアを問わないマルチサービスとの接続環境を提供している。

従来の回線交換サービスでは、一日4億CDRのハイ・パフォーマンスを達成。そこで培われたキャリアグレードの信頼性をVoIP、画像配信等の各種IPコンテンツサービスや次世代携帯サービスでも遺憾なく発揮している。ネットワーク機器についてもマルチベンダー対応で、最近ではディスク・ストレージ等のユーザー情報も収集可能だ。

ユーザー情報の編集・加工についても多彩な機能を保有している。

例えば、Filter機能により、ビルディングシステムには、課金に必要なデータだけを送ったり、Format、Validation機能により、データをアプリケーションごとに適切な形式に変換、自動修正したりすることができる。さらに、

複数のユーザー情報を1つの課金レコードとして関連づけるCorrelation機能によって、3GワイヤレスやIPサービスのように複数のネットワーク装置から情報が生成されるケースにおいても適切な課金情報の生成ができる。また、それらの設定を画面からユーザー自身が簡単に設定できるのが特徴だ。

「多様な付加価値IPサービスの展開を進めるキャリアにおいては、他社との差別化を図れるような新サービスの迅速な提供が最重要課題となっている。こうしたニーズに対応し、サービスの“タイム・トゥー・マーケット”を実現するものがパッケージ・ソフトウェアであるCSG Data Mediationだ」と、CSGジャパン・テクニカルコンサルタントの原山貴之マネージャーは語る。

さらに、CSG Data Mediationは、ユーザー情報を“価値のあるデータ”に換えることで、ネットワーク管理による統計分析や意思決定など、より戦略的なマーケティング活動も実現できる。CSG Data Mediationのアドバンテージは、すでに全世界のキャリア・サービス・プロバイダ80社以上での導入実績からも証明されている。AD

